

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
814	京西保育園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 保 育 活 動 に 関 す る も の	(1) 保育 目標/計画	① 保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が園の教育保育目標を共通理解し、具体的な取り組みにする。 目標達成のために、計画を見通しながら子どもの生活や遊びの姿の見取りや分析を行うと共に、保護者の評価から検証する。 保護者へのアンケートを実施し、教育・保育活動の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育保育目標を達成するために、教育ビジョンを打ち出し、職員全体で共通理解することができた。 各学年の子どもの成長・発達を的確に捉え、個々の発達段階に応じた援助を行い、教育・保育内容を深めることができた。 アンケートを実施し、保護者から評価を得ることができた。 	a	<ul style="list-style-type: none"> 保育計画・園目標に基づいて、子どもの園生活や遊び、行事に保育目標を達成できるように意識して取り組むことができたかどうか。 保護者からのアンケートより、肯定的な評価をいただいたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を明確にし、研究主題のテーマに基づき保育内容の具体的な実践について、職員全体が共通理解するための会議を毎月開き、職員同士が学び合い共有しながら保育実践につなげていく。
		② 保育計画の作成					
		③ 全体的な計画の編成					
		④ 保育活動の評価					
	(2) 保育 内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 園の研究主題に基づいた指導内容の工夫を行い、主体的に取り組める活動ができる環境や援助のあり方を探り、質の向上を図る。 公開保育・園内研修を実施し他園の評価・指導を受けたり、職員間で保育内容や環境構成について意見交換を行い、改善を図る。 事例研修を行い、子どもの姿を見取り、指導計画立案につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> でいあシートや写真などの保育の記録を丁寧に取り、分析することにより、一人一人の思いに寄り添い、その心の動きを見取ることで、子ども理解に努め、個々に応じた援助や環境構成を工夫した。 各年齢年1回の公開保育を実施し評価をおこない、課題を明らかにし工夫改善に繋げることができた。 	b	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修を各クラスで実施し、職員全員が子どもの遊びや姿、援助や環境構成について課題を明らかにしながら取り組むことができた。 職員が子ども一人一人の育ちを見取り、記録しながら具体的な保育内容を探り、子どもの成長発達に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども理解に努め、子どもの主体性をさらに引き出せるよう、発達に応じた環境構成や援助を迫及する。 担任だけでなく、クラス間、学年間、園全体で保育の振り返りや計画を話すことができる時間を確保していく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 行事の目的や内容について子どもが主体的に進められるものとする。 園・家庭・地域がつながることができる園行事を構築し、より豊かな経験が出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で共通理解し、行事の企画、運営を担当者が核となり工夫して取り組みを進めることができた。 様々な行事において、日頃の保育の積み重ねとして主体的に取り組んだ。 	b	<ul style="list-style-type: none"> 園行事が子ども達にとってどのような学びになるのかを検討し、望ましい行事の構築に努めることができたかどうか。 昨年度とは少し違った形での参加体制だったが、どんな形になっても子ども達が、意欲的に取り組む姿が見られ、成長を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの行事が行えたことは、大変良かった。行事の様子やねらいを、保護者や地域の方により発信していく方法を模索し、地域の中での子育てに繋がるようにしていきたい。
		② 行事内容の精選					
		③ 評価反省					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 自分も友達も大切に、仲間と楽しく遊ぶ子ども集団を作る。その場その場で一人一人の思いに寄り添い丁寧な指導を積み重ねる。 一人一人の生活背景や課題を把握し、子どもや家庭に関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の中の、様々な場面で命の大切さや、自分しかかけがえのない存在であることを伝えた。 不適切な保育についてチェックシートを利用し、自身の保育の見直し、子どもへの関わり方を考えることができた。 	b	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の中で、相手を思いやる気持ちが育ってきている。 保育者が、子ども一人一人の思いを受け止める事を、心がける中で、安心して過ごすことができ、友達にも優しくする気持ちが育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者間で互いのかかわりや態度について話し合えるように職員間の関係性を築いていく。 命を大切にすることを進め、その取り組みを発信し保護者へも知らせていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導 (園児の豊かな人格形成)	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 些細な事でも報告、連絡、相談を密にする。 子ども・保護者の思いに寄り添いすすめる。 家庭との連携を常に図っていくようにする。 関係機関との連携を密にとり情報共有を図る。 対処方針や指導計画が明確である 日頃より実態把握・早期発見に努めている 各学級の状況を園組織として共有できている 保護者や地域と連携できている 組織的に迅速に対応する体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で情報の共有を図り、子ども一人一人の実態把握に努め、関係機関と連携しながら必要な支援を行っている。 課題を保育者間で共通理解する。 虐待が疑われる状況がある場合、関連機関と連携を図りながら、必要な支援や援助、報告を行うことに努めた。 	a	<ul style="list-style-type: none"> 迅速な対応、組織的な対応、職員間の連携を図っている。 保護者と信頼関係を構築し、子どもについて情報を共有できている。 保護者が少しでも、園に相談したいという雰囲気があり、実際に相談があったか 気になる園児を全職員で共有し、一人で抱え込まず、話し合える雰囲気作りや気軽に話し合う時間をもてたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮が必要な保護者への適切な対応を続けていく。 引き続き情報を共有し配慮が必要な子ども・保護者への適切な対応を続けていく。 子どもたちの変化や保護者の家庭での養育の様子などを把握し、課をはじめ関係機関と連携を十分に図る。
		② 教育相談・こども理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について					
	(6) 特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援を要する子どもを中心としたクラス運営を行う。 一人一人の課題を明らかにし、具体的な指導方法を共通理解する。 保護者の思いや考えを尊重しながら進める。 関係機関との連携を密にして、子ども一人一人の理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターと連携を取りながら個別の支援計画をたて、教育・保育内容に繋げた。 専門機関にかかわってもらい具体的なアドバイスを得る機会を持ち、子どもの理解・環境構成と支援方法等について学ぶことができた。 特別支援研修を園内で行った。(ミドル研修、特別支援教育コーディネーター) 	a	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターと連携し発達の実態を把握し、その子に合った指導のありかたを各担任が工夫する。 保護者との信頼関係の中で発達相談・教育相談を受けることに繋がられた。さらに子ども一人一人の支援について保護者と共に話し合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援担当保育者が、かかわりについて悩むことも多いため、特別支援コーディネーターを中心に悩みを共有できる場を持ち、相談に乗ったりアドバイスをすることで保育者の力量を高めていく。 職員研修の充実 保護者に寄り添い、関係機関との連携をより一層密にする。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 家庭との連携					
⑤ 関係機関との連携							

自己評価書

814

京西保育園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・教育方針や園経営について考えを明らかにし、リーダーシップを発揮する。 ・職員の自発性や創造性を生かしながら、適切な指導助言を行い、職員の能力を十分発揮させるため風通しの良い職場環境を作る。 ・保護者アンケート・自己評価の実施 ・職員会議を計画的に取り入れ、職員相互の意思疎通を図り共通理解を深める	・園教育目標・研究主題について共通理解を図り、目標に向かって進むことができた。 ・日々の朝礼や、必要に応じて随時連絡、報告、相談を取り入れ、全職員が共通理解を図るよう努めた。 ・保護者アンケートの実施により、園教育・保育の成果と課題を明らかにすることができた。	a	・全職員で園ビジョン・園目標を共有し、園長のリーダーシップのもと取り組むことができたかどうか。 ・副園長を中心に子どもの遊びや研究主題に即した教育目標に取り組み、園目標を意識して日常の保育にあたっている。 ・保護者に取組内容を示し、評価を得た。	・年度当初に教育ビジョンを園関係者、職員に示し、職員一人一人が理解して進めていけるようにしていく。 ・園運営に対し職員一人一人が参画意識を持ち、教育保育の質の向上を目指していく。
		② 園経営目標・方針			a		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			b		
		④ 園務分掌等の連携			b		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			a		
		⑥ 会議の結果			a		
		⑦ 職場の人間関係			b		
		⑧ 園評価の実施			a		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的計画的な園内研修の実施	・研究主題を中心に各種研修や園内研究、公開保育を行い、教育の資質向上を目指す。 ・園外の研修やリモート研修に自主的・意欲的に参加する。 ・すべての子どもがいきいきと活動できるように特別支援教育コーディネーターによる特別支援教育についての研修会を実施する	・園内公開保育を実施し、カンファレンスを充実することで環境改善、教材研究、援助のあり方について学ぶことができた。 ・園内で研究主題に沿った取り組みについてクラスで情報共有を図ったり、全職員での研修の場を設け、共通理解しながら取り組むことができた。 ・ミドルリーダーを活用しての研修の運営、進行をおこなった。 ・リモート研修を含め、様々な研修に積極的に多く参加することができた。	a	・子どもの姿を分析・記述することで指導のあり方や子どもの発達過程を共通理解することができた。 ・資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修を実施できたか。研修を積極的に受けられるよう啓発したり、環境を整えたりすることができた。	・計画的に園内研修を企画し教育、保育の見直しが常に図れる環境を作っていく。 ・園外での研修会参加については、参加人数が限られているため、学んだことを園内で発信できるような報告会などの体制を作っていく必要がある。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			a		
		③ 園外の研修への積極的参加			b		
		④ 園外研修内容の報告や伝達			b		
		⑤ 研修成果の普及			b		
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	・安全管理マニュアルをもとに避難・防災訓練計画を立案し職員の共通理解を図る。 ・毎月の避難訓練や防災訓練を行なう。 ・交通安全教室を計画し、交通安全への意識を高める。 ・不審者対応に留意し、送迎時間以外の園舎の施設。	・安全計画・防災計画を全員で見直したり、子どもの危険行動や箇所を洗い出し、危機管理意識向上を図る。 ・アレルギー誤食防止に努め、チェック体制を強化することで誤食防止につながった。 ・毎月の避難訓練では様々な災害に備えて適切な避難の仕方が身に付くよう取り組むことができた。	a	・園児に自分の身を守るための行動をわかりやすく伝えることに努めた。 ・ミッションシート等を活用しながら、子どもの安全確保のための職員の意識向上を目指し、災害時の職員の動線について全職員で確認し適切に動けたかどうか。	・職員は、常に危機管理意識を持ち、引き続き子ども達の安全対策について検討し、安全対策を確かなものにする。
		② 防災計画の立案			a		
		③ 危機管理体制の整備			a		
		④ 安全指導の工夫改善			a		
		⑤ 家庭との連携			b		
		⑥ 関係機関との連携			a		
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	・健康安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くよう、家庭と連携を大切にしながら指導に努める。 ・日々の健康観察をし、水分補給や検温、体温調節ができる環境、運動量の調節等を配慮し、全職員で子ども達が健康で安全に過ごせるようにする。 ・アレルギー対応を徹底する。 ・栽培活動を通して、野菜が育つ様子に興味をもち、様々な食物への関心を広げる。	・手洗い・うがいなど子ども達の年齢に応じて感染対策を身につけることができた。 ・食事提供については、衛生管理・アレルギー対応等職員間で十分な情報確認・共有を図りながら日々安全な提供に努めた。 ・栽培活動で収穫した野菜は、給食などでの提供をおこなうことで、食べることの喜びや意欲に繋がった。	a	・室内の湿度、換気、温度調節を徹底した。 ・喫食状況、残食量を確認し、給食会議で、職員間で共有した。	・手洗い・うがいの徹底や室内の換気・湿度・温度・除菌等衛生面の環境整備について引き続き管理を行う。 ・栽培活動は発達年齢に応じた栽培方法を考慮する。また、計画的に実施することで、食への興味、関心につなげていく。 ・アレルギー誤食防止のため徹底した成分確認のチェック体制の継続
		② 心のケアや健康相談の体制の整備			a		
③ 健康観察、健康管理能力の育成		a					
④ 関係機関との連携		a					
⑤ 給食の衛生管理		a					
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	・保護者、地域、小学校、中学校との連携に努める。 ・地域との交流や地区に自主防災・防犯会の会合に参加し、連携を深める。 ・ホームページの更新を行い園の様子を発信する。	・園の様子をホームページやドキュメントで発信し、保護者や地域との連携に努めたり、玄関の掲示板にであしシートを掲示し、園の保育・教育の理解に努めた。 ・小学校と年長児との交流を通して、小学校への期待に繋がったり、小学校の先生と連携を図ることができた。 ・地域行事に参加し、地域の方との親睦を深めたり、園の保育・教育内容の理解を図るために努力した。	b	・園の保育・教育内容や活動の様子を適切に情報発信できているかどうかを、常に確認し見直ししながら進められたかどうか。 ・地域の方との交流を含め、行事に参加してもらえらる機会を持つことができなかった。	・ホームページの内容を検討し、更新回数を増やし、保護者・地域への情報発信に努めていきたい。 ・今後も地域との交流を大切にしながら、子どもの育ちに繋がる取り組みの精選に務める。 ・地域の行事などへの参加啓発や交流を持つ機会を積極的におこなう。	
	② 園(保育)公開			a			
	③ 小学校との接続・連携			a			
	④ こ幼保との連携			a			
	⑤ 保護者会の活性化			b			
	⑥ 地域との行事、会議等			b			
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	・子どもたちが気持ちよく安全に過ごせるように、環境の整備充実に努める。 ・施設点検を行い危険・改善箇所を把握し、修繕、整備をする。	・季節や発達年齢、遊びに応じた園内環境の見直し改善に努めた。 ・園内設備の点検をこまめに行い、必要な修繕をおこなったり、使用しやすいように改善したりした。	a	・園内の環境が安全で発達や遊びに合わせた構成となっているのか常に見直す。 ・安全点検をすることで、園舎や園庭の危険箇所を修繕・改善できた。	・遊び環境だけでなく、園舎設備についても定期的な点検を行う必要がある。 ・全職員で環境の整備について共通認識を持つ機会をもち取り組んでいきたい	
	② 施設設備の有効利用			b			
	③ 施設設備の管理			b			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	・情報管理について、全職員で共通理解をし、万全を尽くす。 ・個人情報の取り扱いには十分に留意し、管理と保護は徹底して行う。	・個人情報の漏洩、紛失が起らないように細心に注意をするように全職員に注意喚起を図った。 ・デジタルカメラは、管理簿を使用して、適切な保管を行う。カメラの返却状態などを確認を日々おこなう。	a	・カメラの出し入れの記録簿を作成したり、記録媒体など個人情報の管理はマニュアルを遵守した。	・個人情報等の取扱いについては、個々の意識を高め、業務をおこなえるように努めている。	
	② 公文書の作成			a			
	③ 個人情報の管理・保護			a			
	④ 情報の収集			a			
	⑤ 電子媒体の管理			b			